

編集後記

『京浜歴史科研年報』もついに一〇号を迎えた。この一〇年間、京浜歴史科学研究会は、紆余曲折がありながらも学習を続けてくることができた。当初は、自由民権百年神奈川実行委員会の後身として、自由民権期だけを対象とした研究会だった本会も、少しずつ学習対象は広がり、現在は幕末期から大正・昭和期までに広がっている。また学習そのものも徐々に深化してきた。当初は、一般に歴史学の成果とされていることが神奈川でも実証できるのかと考えていたが、現在では、地域史研究においては、地域実態をどれだけ具体的に捉えられるかが鍵だという認識を持つようになってきた。

またこの一〇年間は、日本にとっても大きな意味を持つ一〇年であらう。先頃、筆者は、日本の高度経済成長について話をする機会を持ったが、その折考えたことは、一九四五年以来、日本は、経済復興期、高度経済成長期、その後の低成長期を通じて、一貫して成長を続けてきたが、それは、円安基調の貿易体制、経済政策重視の長期安定政権、そして米ソ冷戦体制という大きな枠組みの中で、常にアメリカのサポートがあったことが重要な要因であった。これらの条件は、この数年、すべてが失われ、バブルの崩壊以後、成長はマイナスへと転じつつある（政府は成長率二％といっているが……）。こういった転換の時期に、地道に地域を見つめてきたことは、決して意味のないことではなかっただろう。そのことが問われてくるのはこれからである。

今回の『京浜歴史科研年報』は、第一〇号を記念して、事務局メンバーを中心に全員が何かを書くということを目標に、編集計画を立てた。その中身は、研究会での学習活動からまとめたもの、個人の学習成果によるものなど多様である。この多様さが、本研究会をここまで続けさせた所以であらう。

最後に、今回も印刷をお願いした横浜大気堂さんには大変ご迷惑をおかけした。あらためて御礼申し上げたい。なお、かくいう私だけ、文章を載せられなかったことをお詫びしたい。

（植山 淳）

京 浜 歴 史 科 研 年 報 第 一 〇 号

発行日 一九九六年一月二八日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒234

横浜市港南区港南台二一―一九―四〇七

奥田晴樹方 Tel 〇四五―八三一―五二七七

（郵便振替口座 〇〇二七〇―八―一五五三五）

印刷 合資会社 横 浜 大 気 堂

横浜市中区真砂町四―四〇